

女性ヘルスケア委員会

1. 常置的事業

女性ヘルスケア委員会では、日本人女性のQOLの向上を志向して、前年度に引きつづき、①産婦人科における乳腺管理のあり方に関する小委員会、②婦人科疾患（良性・悪性）治療がおよぼす身体的影響に関する疫学研究小委員会、③骨盤臓器脱の保存的治療法に関する検討小委員会、④本邦における産婦人科感染症実態調査小委員会、⑤女性アスリートのヘルスケアに関する小委員会、⑥女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムに関する小委員会、⑦HRTガイドライン2017年度改訂版作成小委員会、の7つの事業を常置的事业として活動する計画である。

2. 親委員会

本委員会では各小委員会内で検討し設定した平成28年度の事業計画について、アンケート調査などをはじめとする事業内容の進捗状況を把握し、計画通りに遂行されているか否かを確認する。また、定期的に委員会を開催して活動の内容や今後の方針などを議論する。最終的には、事業内容の結果を年度末の日本産科婦人科学会で報告する。さらに、女性ヘルスケア関連領域に関する問題や問い合わせに対して可及的に対応する。なお、小委員会で発生した案件は適宜親委員会で審議する。

3. 小委員会事業

(1) 産婦人科における乳腺管理のあり方に関する小委員会

本小委員会の目的は、産婦人科医による乳房管理の在り方、特に若年者、妊娠中、HRT中の乳房管理の在り方、さらに近年増加している乳がん診療に対する産婦人科医の関わり方、関連する技術取得について、最近の知見、他学会との連携を基本に、「管理指針」を作製することである。平成28年度は、平成27年度に検討・決定した「産婦人科医のための乳房管理マニュアル（仮称）」の執筆項目に沿って、本マニュアルを作成し、年度内に完成させる予定である。

(2) 婦人科疾患（良性・悪性）治療がおよぼす身体的影響に関する疫学研究小委員会

各共同研究施設において婦人科悪性腫瘍治療後の変化として、①生活習慣病（高血圧、脂質異常、糖尿病、骨粗鬆症）の発症や病状変化、②骨密度変化、③脆弱性骨折、心血管疾患、血栓性疾患の発症について、問診や採血結果のデータを集積の上、中間解析し、報告する予定である。

(3) 骨盤臓器脱の保存的治療法に関する検討小委員会

平成28年度は、平成27年度に作成し臨床研究審査委員会の認定を受けたアンケート内容を、全国80大学産婦人科学教室を中心として、各大学関連病院に依頼をし、インターネットからクラウドを使用して入力していただくことで調査を進める。調査期間は平成28年度開始から約6ヶ月間とし、その後、データ解析を行う計画である。

(4) 本邦における産婦人科感染症実態調査小委員会

平成28年度は以下の計画を遂行する予定である。

① 性感染症による母子感染と周産期異常に関する実態調査

アンケートの結果解析で、さらに追跡調査が必要な検討課題があるかどうかを明らかにする。

② 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン

今回本学会と日本産婦人科感染症学会からパブリックコメントを提出した日本化学療法学会と日本外科感染症学会により作成されたガイドラインについて、実際に施行した後の適正について検証する。

③ 異性間性感染症としてのHIV感染/AIDS

近年、本人がHIV感染に気付かずAIDSを発症してから受診する「いきなりAIDS」が増加している。また、生殖年齢にある女性の感染は垂直感染の直接要因となる。他のSTIで産婦人科を受診し

た女性に対するHIV検査施行率と検査法、スクリーニング検査陽性時の対応を調査する

④ 細菌性膣症（BV）非 Albicans Candida膣炎（NACV）

BV、NACVは直接生命にはかかわらないが前期破水やHIV、HPVを含む他のSTIのリスク要因である。これらの診断法と治療方針についてアンケート調査を施行する。

⑤ 産婦人科感染症に対する漢方治療

生殖内分泌、婦人科腫瘍、女性ヘルスケアそれぞれの分野の疾患に対して補完的に漢方治療が行われているが、産婦人科感染症に対する漢方治療の実態調査を行う。

（5）女性アスリートのヘルスケアに関する小委員会

平成27年度に報告したアンケート調査結果をもとに、その問題点を明確にしてその解決策を検討する。問題解決のための、ディスカッション、関連するエキスパートとの連携、本邦や海外の文献を検索し、管理・治療指針を作成する。また、同アンケート調査の中で、まだ解析されていない項目のデータ解析を行い、その問題点の抽出と解決策の検討を行う。以上の計画を遂行するために以下を行う予定である。

① 女性アスリートに疲労骨折の頻度が高いため、その原因を解明する。エネルギーアベイラビリティ（摂取エネルギーと消費エネルギーの差）の低さに関係すると考えられる栄養の問題、練習の量・種類・時間の問題を検討する。同時に、スポーツ管理栄養士との連携を図る。

② アスリートには無月経頻度が高いため、その原因を1)と同様に検討する。さらに、無月経と疲労骨折の関連性を検討し、女性アスリートの健康管理に及ぼすエストロゲンの影響について考察する。

③ 疲労骨折や無月経を罹患した際の、治療アルゴリズムや受診する際の婦人科医師リストを作成する。

④ 女性アスリートの初経年齢を調査し、競技レベル別、競技系列別、個別種目別、BMI別に、初経の遅れについて検討する。また、コントロールとも比較する。

⑤ 月経随伴症状に関するアンケート調査でのデータ解析を行う。月経困難症や月経前緊張症（PMS）のアスリートにおける有病率を調べ、コントロールと比較する。

⑥ 月経困難症とPMSを有するアスリートについて、それぞれの重症度と治療法についてのデータ解析を行う。また、コントロールについても解析し比較する。

⑦ OCの使用状況と使用目的について、データ解析を行う。また、アスリートにおける使用実態を明らかにし、コントロールと比較する。また、OCの使用頻度を今後上昇させる方策について、検討する。

⑧ 指導者への意識調査結果に基づき、指導者教育の重要性と、その教育方法を検討する。

（6）女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムに関する小委員会

産婦人科は「妊娠した人が行くところ」という先入観が強く、月経トラブルや二次性徴など女性のヘルスケアニーズが高くなる思春期～20代の若年女性は産婦人科の敷居を高く感じている。「産婦人科＝妊娠」のイメージを払拭し敷居を下げるとともに、受診した女性を取り込み、女性の包括的なヘルスケアを実践し、学校教育や企業での健康教育にも積極的にプロモーションを展開できる産婦人科医（女性のヘルスケアアドバイザー）を養成することを目的とし、本年度も引きつづき女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムを実施する。

本年度は平成27年度の研修プログラムと同じ内容で、1.5日研修を1回、1日研修を4回、計5回東京において開催する。講義形式の研修については、それぞれ確認試験を行い、得点率60%に満たないものおよび欠席者はDVD受講の上、再試験を実施する。合格者には修了証を授与し、ホームページに受講修了者名を掲載する。受講者募集はメールニュースやホームページで案内し、先着順または抽選で受講者を決定する。定員は200名とする。

また、事業の評価として、平成26年度の受講修了者による地域での啓発活動等の実施状況に関する調査を行い解析する。また、平成27年度の受講修了者へのアンケートにより、受講前後での対応能力や啓発への取り組み状況の変化について調査・解析する。

（7）HRTガイドライン2017年度改訂版作成小委員会

2017年度にHRTガイドライン2017年度改訂版を刊行するべく、概略、下記のスケジュールで作業を行う予定である。

2016年6月下旬 初校完成予定

2016年7月下旬 日本女性医学学会HPに初校をアップし、パブリックコメント募集

2016年10月 第31回日本女性医学学会学術集会においてコンセンサスミーティング

2017年4月 第69回日本産科婦人科学会学術集会においてコンセンサスミーティング

日本女性医学学会と日本産科婦人科学会理事会の承認後、2017年度中に発刊予定